

かながわ異グ連ニュース

*申*申*申*

*申*申*申*

！！年頭にあたって！！

神奈川県異業種グループ連絡会議議長 南出健一

2004年が明けました。月並みな挨拶になりますが、新年おめでとうございます。皆様、いかがお過ごしになったでしょうか。

昨年中央から日本の景気は回復の軌道に乗って来たといわれながら、何一つ手応えを感じ取ることは出来ませんでした。ぜひ、今年こそ私たち中小企業にとって元気の出せる良い年にしたいものです。

この10数年、暗中模索を繰返してきた日本の産業も先行きにわずかながら光明を見出せる時代に入ったといわれています。それも華やかなベンチャービジネスが先駆けになったわけではありません。「古い」といわれてきた日本の基幹産業である製造業が欧米資本との提携やその傘下に入ったり、大手企業が既存事業の切捨てや再編に継ぐ再編を繰返しながら主役の座に返り咲いたのです。とりわけ、自動車産業やデジタル機器の復権に多くの期待が寄せられています。

とはいえ、その陰には「リストラ」という名のもとに多くの人々が失業の憂き目に遭った現実があります。また、関連する中小企業は否応なく犠牲を強いられ淘汰されて来ました。産業の再生とは「小の虫を殺し大の虫を生かす」一犠牲の上に成立していることを片時も忘れてはなりません。それゆえ「喉元すぎれば熱さを忘れる」手前勝手な論理だけを一人歩きさせてはならないのです。

本来、産業とは人々を幸福にするための道具であるはずですが、それが何時の間にか「産業」そのものが目的化され、すべての条理に優先されて来てしまいました。ここには誇り高き歴史・文化は色あせ、人々が支えあう気風も礼節も喪失し、ただ殺伐とした「グローバル」という競争原理だけがこの国を支配しているかのように見えるのです。それこそ明治維新から130年、「目に見えるものだけを追い続けて来た」ことへの軽薄さの代償ともいえるべき、なにもものにも換えがたい目に見えない「多くのこころざし」を失ってしまったのではないかと思うのです。

今のままでは人間を幸福にするはずの「政治」「経済」は新生どころか再生すらおぼつかないでしょう。2004年、青臭いと言われるかもしれませんが、失ってしまった「こころざし」への思考を再構築しながら、私たちにとって心豊かな社会とは何かを模索する年にしなければと考えています。

*申*****申*****申*

かながわ異グ連の平成16年（2004）を展望する

神奈川県異業種グループ連絡会議事務局長 芝 忠

平成7年（1995）4月、神奈川中小企業センタービル内に開設された「かながわ異業種交流センター」は、本年9年目を迎えました。昨年は浦賀でペリー来校150年祭が行われ、2009年は横浜開港150年でもあります。神奈川はこの「開港」により大きく変貌、海外交流の窓口として機能し、近代化の礎が築かれました。しかし航空機やインターネットの時代となり、神奈川の優位性は崩れつつあります。東京都内の大規模再開発の中で、横浜の業務核都心の拠点の役割が低下し、「関内地域」の活性化対策の一端を我々のプロジェクトが支える可能性が出ているということも率直な驚きです。

異業種交流も「産学連携」や「創業支援」へとシフトする中で、我々が永年蓄積してきた企業間交流や情報交換のノウハウが「事業連携時代」の手法として脚光を浴びるようになってきました。一昨年から昨年にかけて、「航空・宇宙部品づくり」「新道路舗装材の施行」「関内地域再生」「公的補助金獲得支援」「食品の安全性確保」「自立社会構築」「商店街活性化」「新防食技術の活用」「都城交流」など新しい視点による事業化促進プロジェクトが次々に生まれました。一部は従来の路線の見直しによる再スタートのものもありますが、いずれも異グ連（あるいは異業種交流センター）にとっては戦略的な分野のプロジェクトであります。

こうした動きが新しい事業連携推進手法として、全国の異業種交流活動分野の注目を集めているだけでなく、大学や経済団体・産業振興機関・政党などからの調査や講演依頼が相次ぎ、従来以上に広範囲な交流ができたということも大きな特徴でした。（主な交流先：大阪大学、横浜国立大学、電通大学、大阪商工会議所、京都産業

21、けいはんな（関西文化学術研究都市）、神奈川産業技術交流協会、複数の政党など）

今年は「異グ連10年計画（2002-12策定）」の第3年目にあたります。第4年目に予定している「中小企業者の一大交流センター（別名：かながわの梁山泊）」づくりのステップとなる「新産学交流サロン」が川崎・横浜・横須賀の3ヶ所同時発足となります。本交流センター構想が具体化すれば神奈川の地域革新に繋がり、一層の産学公（官）交流が進むものと思われます。しかし一部には、この構想に消極的な動きもあり、かながわ異グ連は、さらに理解・協力を得るべく尚一層の努力と連携を強化し「地域からの交流革新」を進めていきたいと思っています。

今年もかながわ異グ連への皆様のご協力を、よろしくお願いいたします。

了

主要なかながわ異グ連のプロジェクト、及び研究会の状況報告

公的補助金プロジェクト

松井BC記

公的補助金プロジェクトでは、補助金募集時期が集中する1月～3月に向け、「公的補助金活用普及セミナー」を一般向けに開催することになりました。

第1回「公的補助金活用・普及セミナー」

日時：1月16日（金） 14：00～17：00

会場：中小企業センター 13階 「第2会議室」

内容：「あなたに補助金が取れる方法を伝授します」

- 1)公的補助金とは、
- 2)補助金を巡る動向
- 3)補助金申請のメリット
- 4)公的補助金制度のあらまし
- 5)公的補助金申請のポイント
- 6)公的補助金申請書作成のポイント

講師：芝 忠 会場費・資料代：1000円

申込：公的補助金活用普及研究会 事務局長

志岐弘之 bsupport@dream.ocn.ne.jp

第2回予定 2月26日（木）

第3回予定 3月16日（火）

開催場所、時間は第1回と同様の予定（後報）

＜神奈川中小企業センターの

補助金セミナーもあります！＞

（交流支援課・課長代理 石田静子氏のメールより）

公的助成金申請支援集中相談会

～助成金申請書の書き方伝授します～

年明け早々の県工業振興課主催の補助事業説明会を皮切りに、中小企業の技術開発を中心とした公的助成金の募集が目白押し。この集中相談会ではそうした新しい動きに関する情報を提供するとともに、申請書の書き方のご支援を行います。

なお、今回のセミナー講師は、『新事業開発公的補助金申請・獲得マニュアル』の編著者である芝忠氏です。

日程：1月26日（月） 神奈川中小企業センター6F

10:30～11:45 相談① 先着15名（完全予約制）

13:00～14:00 セミナー「助成金申請書の書き方伝授します」

14:15～15:30 相談② 先着15名（完全予約制）

会費：無料

申込：石田課長代理 045-633-5192

都市（関内）再生プロジェクト

織方BC記

地下鉄開通や、メディアセンター竣工も間近に迎え、2年目にはいった本プロジェクトは、交流研究会の段階から、事業化の段階へと進みつつあります。

年明け早々の1月14日（水）には、空きビルを視察しながら、そのオーナーに対し、コンバージョン（用途変更）的ビジネスモデルを、各々の専門の立場から具体的に提言出来るようにしようと、いよいよ第二ステージへ移行するところです。

韓国（日韓ビジネス協議会）

高橋BC記

第38回日韓ビジネス協議会は、昨年の12月10日に忘年会を兼ねて予定通り盛大に開催出来ました。

第39回日韓ビジネス協議会は1月28日（水）に新年会を兼ねて開催します。新年会はセンター近くの和風イタリアンレストランで開催予定です。

参加費：2,000円（超過分は協議会で補助）です。詳細内容は追って決定します。

協議会：午後3時～5時（6階特別研修室）

新年会：午後5時10分頃から予定しています。

*どなたでも参加自由です。会員以外の参加者は高橋（045-311-0094）まで連絡して下さい。

第26回「中小企業政策研究会」

島津(俊)BC記

新年の冒頭を飾り、平成16年度の中小企業政策の方向について、中小企業経営者、その支援者等を対象に標題の研究会を次の通り開催いたします。ぜひ多数の参加をお待ちしています！

日時：H16年1月29日（木） pm6:00～8:30

会場：神奈川中小企業センター13F第二会議室

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80

TEL：045-633-5192

内容：「**中小企業政策の動向**」

H16年度の主要政策の紹介など

講師：経済産業省 関東経済産業局

産業企画部 情報政策課長 明田 任功氏

会費：1000円

申込：中小企業政策研究会 事務局 有村 知里

HDA00467@nifty.ne.jp

<p>高機能・環境舗装等プロジェクト 織方 BC 記 画期的な新建材として、全国的な反響を呈してきている。産業廃棄物（古タイヤ、焼却灰、木屑等々）も、混合可能との事で、2 次製品への活用が各方面の話題となっている。従って製販体制と並行して、量産体制をいかに、構築していくかが大きな話題となってきた。早急に解決しなくてはならない。</p>	<p>異業種交流活性化研究会 小野川 BC 記 資料「用語解説：異業種交流、経営資源、交流の成果、活性化、産学連携」（鉦鹿 BC 提供）、「異業種交流(概念)(成果)(活性化)を考える」（島津龍男 BC 提供）、「異業種交流の概念図 - I、II、III、IV」（小野川 BC 提供）を叩き台として“成果”を主題に活発な研究討議を継続しています。 次回は“活性化”を主題に討議しますのでぜひ皆さん参加してください。 今回は 1 月 1 9 日（月） a m 10:00 から、センター 5 F 会議室です。多数の参加を期待しています。</p>
<p>三浦深層水事業化プロジェクト 八幡 BC 記 「楽しむ会」では、12 月のうららかな日、深層水の取水から給水施設までの現場を見学し、その後、観潮荘で深層水露天風呂に浸かり、深層水料理を堪能する。露天風呂はヒットしており、平日 200 人、週末 500 人と入浴客が集まるとか。それにヒントを得て事業化を検討する。</p>	<p>‘8 5 神奈川異業種交流プラザ (K I K) 芝 H15/12/16 山形県米沢市で、米沢電機工業会との交流計画(案)及び H 1 6 年活動計画(案)を、協議しました。</p>
<p>自立社会構築プロジェクト 有村 BC 記 当プロジェクトは要介護者や高齢者が自立するための介護福祉機器の販路開拓や普及を目的としています。12 月 19 日に第 5 回会合を行い、松岡委員長（産能大教授）はじめ、病院・介護関係者や機器開発メーカーなど産学官の幅広い分野から 13 名が参加しました。大分県の岡本病院理事長からは、自立生活を可能にする手法を広めるための企業等との連携活動を論文にまとめて、リハビリテーション医学会で発表したとの報告があり、他の参加者からは開発商品や活動状況報告がありました。</p>	<p>① 相互訪問・会社見学：4 月、5 月 ② 社員交流（人材育成）：次世代経営幹部会にて ③ ホームページの相互リンク ④ 海外視察：中旬以降、中国（？） ⑤ 「行政施策」紙へ米沢企業の紹介 ⑥ 広域地域・全国ネットワーク研究会へ参加 ⑦ かながわ異グ連「新産学交流サロン」へ参加 ⑧ 後継者問題の共同シンポジウム開催 等々</p>

「異業種交流の新拠点」 — 神奈川新聞 H13 年 12 月 30 日から抜粋 —

神奈川異業種グループ連絡会議（南出健一議長）が「**新産学交流サロン**」構想を展開中である。民間主導で、既存のグループ枠にとらわれず、自由な個人参加型を基本とし、開催拠点の地域が主体的に企画・展開する。例えば定期的な勉強会、報告会、講演会、さらに資格所得講座開催や経営相談窓口の開設等々が考えられている。対象は、学生、主婦、シニア世代といった“街の起業家”も巻き込み、また既存企業は製造業、商業、サービス業、農業、漁業という多様な分野の参加を期待している。

既に K S P（かながわサイエンスパーク）、横浜産業振興公社、K B I C（かわさき新産業創造センター）などの公的機関が賛同し、神奈川県中小企業家同友会、雇用・能力開発機構、といった団体も、企画構想、活動のバックアップを始めている。

当初“横浜”“川崎”“横須賀”でスタートし、将来的には県央、湘南、県西へ展開したいとしており、すでに川崎は K S P、横須賀は神奈川新聞横須賀支社が拠点になることが決まっている。

異業種交流、創業支援、産学連携、雇用対策を「市民」が自ら一体的に進める挑戦として注目される。

明けましておめでとうございます！！

事務局スタッフを代表して今年こそ実り多き飛躍の年でありませう様お祈り申し上げます。さて、昨年は結成間もないスタッフ一同にとって五里霧中で駆け抜けた一年でありました。私自身初めての経験も多く、他地域との連携や組織変革、新運営方針等、急展開する状況の中に後追の把握で精一杯な状況に何度か追い込まれましたが、皆様の協力を得てどうにか大過なくやって来られました。

今年は多地域間協定締結や交流サロンの創設など異グ連事務局にとり恐らく激動の一年になるものと思われませんが、南出議長 芝事務局長のもとでスタッフ一同が一丸となり組織の円滑な運営に努める所存であります。また更にホームページの改良や異グ連通信の更なる充実、各種会議の開催等によって皆様に役立てていただける情報をより多く配信する予定でもありますので是非ご期待願います。

尚、本年も昨年にも増して事務局へのより一層のご支持ご協力賜ります様、重ねてお願い申し上げます。

事務局一同 代表 渡部

異業種交流専門家育成講座



異業種交流スキルアップ及びプロの育成の一環として、第一線でご活躍のコーディネーター及び経験豊富なベテランの方に毎回登場願ひ、実績・経験に基づいた持論を展開いただきます。

異業種交流雑感

C&Sグループ 村上BC

自分が異業種交流に出会ったのは17年前で、その頃から県内のいろいろなイベント及び異業種グループの結成や運営に携わってきた経験から感想を述べさせていただきます。

<異業種交流の組織>

当初は同業種の集まりでは、お互いに商売仇のため発言に気を付けなければとの意向で1業種1社と言う制限が設けられた、その後その制限もゆるみ同業種でも設備や製品の大小等専門分野等が違えば良しとするということになってきた。最近では同業種であっても相互に良しとする諒解があればよいことになり、いまや異業種交流とは多業種の人達の交流の場になり、1業種1社という定義に縛られないようになってきた。

また当初は殆ど製造業主体であったが、マーケットインの思想と物流抜きの開発は成り立たないことが浸透し、物流関連企業も参加を呼びかけ、バランスのとれた編成になりつつある。

<異業種交流は目標か手段か>

異業種交流の成果としては自社の不足する外部資源を内部化することであり、目標としては経営の改善であり下請け形態からの自立化である、異業種交流はそのための手段ではないか。

その他に経営者にとって会合目的の数分の一は、癒しの場として考えている。各自が抱えているいろいろな問題や悩みを酒を飲みながら打ち明けたり、相談する場としては最適であり、それが明日への活力になるならば、無味乾燥の会合のみの場合よりも有意義であるし、参加への動機付けにもなっている。

<メンバー構成>

メンバーの中には往々にして、自分の意見にこだわり、妥協できない人、やたらに発言したがる人等、協調性に欠ける人がいる。話してもわからない人がいると、グループの運営に無駄なエネルギーが必要になる。

結成当時はわからないが徐々に目に付いてきたら事務局が注意するとか、それでも頑張る様であれば、異業種交流組織のゆるやかな組織を活かして一旦解散して、マークIIの組織を結成した方が手取り早いようである。

<コーディネータ>

コーディネータはあくまでも黒子であり、グループの方向性が間違わないように誘導する、意見がまとまらない時などにアドバイスをする、等とかで、自分の意思を強く押し付けないほうが良いようである。

またグループのテーマに関しての知識は必要であるが、自分の知らない分野の知識については、生半可な知識を押し付けるのではなく、その道の専門家の支援を受けなければならない。そのためには日頃から多面的な人脈形成や継続的な固有技術や時代のニーズにあった知識の研鑽が必要となる。

最近ではホームページによる検索である程度の調査は可能となり、人材の探索もメーリングリストにより簡単になっている。しかし自分が日頃いかに有効なメーリングリストに参加しているかが重要である。

自治体等の支援があるプロジェクトやグループ以外は殆どのコーディネータがボランティアか又はそれに近いレベルでの支援である。そのレベルにおいて必要論を論じても、コーディネータの協力が有って成り立っていることなので、不要と思うならばはっきり意志表示してもらった方がよい。

<グループの活性化とは>

グループのメンバー全員が一つの目標に対し情熱を燃やすことであり、製品の開発とか、イベントの運営等で各自の役割分担が明確である時などが相当すると思われる。会合においての情報のやり取りはギブアンドテイクと言われるが、人数が多くなるにつれ大半の人はテイクのみで発言する人は絞られてくるので注意を要する。また会合自体が自由に意見を交わす事が出来るとか、終わった後の飲みにケーションで飲みながらの意見交換、相談ができるのも活性化の大きい要因となる。

自社の差し迫った経営相談等についてはお金がかかってもその道の専門家に相談すべきで、異業種交流メンバーの意見を聞くのは参考程度にとどめた方がよい場合も有る。

<開催日>

例会やイベントの場合過去の実績によると週のうち、もっとも人が集り易いのが水曜日の午後で、その次が金曜日の午後となる。月曜日の午前中は週のスタートのためか会議が多い様である。また月末の経営者は忙しいので避けたほうが良いようである。

以上